

大支援研ニュース

特別支援教育

平成21年10月13日発行
大阪府支援教育研究会
会長 草竹 幸一
(阪南市立波太小学校)

次号は
11月中旬に
発行予定

<http://daishienken.visithp.com/>

ニュースや本会活動への問い合わせ・ご意見は、Mailにて件名に「大支援研問合せ」など「大支援研」を入れてください。

jimukyoku2009@daishienken.visithp.com

アドレスをテキストで載せるとスパムメールが多数届いてしまうので、画像で張り付けてあります。

大阪府支援研役員総会予定 本部・支部役員の方はご予定ください。

第3回平成22年 1月14日(木)午後3時～5時 **アウィーナ大阪 3階 生駒の間**

冬季研修会のご案内 (一次案内を添付しました。ご覧ください。)

平成22年(2010年) 1月30日(土) 午前10時～午後4時(9時30分 受付開始)

於 たかつガーデン

午前・午後 それぞれ以下のようなテーマ別講座を実施いたします。

- ・アセスメントについて
- ・地域での障がい支援について
- ・知的障がい教育における自立活動について
- ・ICT活用について
- ・ICFについて
- ・性教育
- ・自閉症教育プロジェクトによる講座

実技研修会 夏の教材製作講習会報告 (詳細は別紙)

平成21年8月10日、アウィーナ大阪で、実技研修会(夏の教材製作講習会)を行いました。

突然の台風接近で天候が危ぶまれる中、86名の参加者によって、熱心な研修が行われました。

今年も、象の会の内藤壽・松永榮一・朝井翔二各先生にお出でいただき、午前中の研修では今までの教材などの紹介と説明。午後は、次の6つの教材の制作の講習でした。

ICT活用夏期講座Kの報告 平成21年8月17日(月) 14:00～17:00 於 高槻市立芥川小学校

他講座も報告原稿が届きしだい、紹介させていただきます。今号はKを報告します。 (詳細は別紙)

○講義「障害支援の基礎知識 ～最近思うこと～」 講師:大西 俊介さん

○シンポジウム「みんなで考えませんか?～ICTの先に有るもの」

大西俊介さんは主にコミュニケーション支援者をサポートする取り組みをされておられます。今回は大西さんと志を同じくする各界の方々にも集まっていただき、ユニークなシンポジウムが可能となりました。

施設見学研修会報告 大阪障害者職業能力開発校 (詳細は別紙)

2009年8月25日(火)、泉北ニュータウンの緑に囲まれた大阪障害者職業能力開発校に、30余名が伺いました。

この施設は、職業能力開発促進法に基づいて国が設置し大阪府が委託運営する機関です。就職率は、IT関連の仕事を中心におおむね70%をこえているとのことでした。福祉施設ではなく就業訓練の場である職業能力開発校は、就労という出口を目標に、実践的なカリキュラムが組まれていました。

他団体記事紹介 (他団体が主催の講演会・研修です。問い合わせ等は当該団体に直接お願いします。)

第25回 大阪ムーブメント教育研究会のご案内 **詳細と申し込み方は別紙**

大阪ムーブメント教育研究会 (JAMET 大阪支部)

平成21年10月24日(土) 14:00 ~ 16:00 大阪教育大学 附属特別支援学校 参加費 :500 円

内 容 : 夏期セミナーの伝達講習

「発達障害児・者の性教育研究会 第2回例会」のご案内 発達障害児・者の性教育研究会

平成21年10月24日(土) 午後1時30分~4時 於 大阪市長居障害者スポーツセンター 1階 和室

テーマ 「本校の性の現状と課題」

講 師 大阪府立たまがわ高等支援学校 教 諭 吉村 晴海 さん

大阪府立たまがわ高等支援学校 養護教諭 西村 宏美 さん

大阪府立たまがわ高等支援学校 養護教諭 田中 滋子 さん

同校の生徒の性の現状やそこから見えてくる課題、性教育への取り組み方やその内容などについて

資料代 当日会員 500円 **詳細は別紙をご覧ください。**

平成21年度実践記録論文の募集について 大阪特別支援教育推進連盟

A4版で本文を5000字程度(ワープロ可)写真、グラフ、図等の挿入も可

しめきり 平成22年1月15日(金) 優秀作品には、賞状及び記念品を贈呈します。

詳しくは、別紙の案内をご覧ください。

P I Cシンボルの学習会 主催 日本PIC研究会

平成21年11月21日(土) 13:00~16:30

於 同志社大学新町キャンパス 臨光館 207

講師 榎場政晴 大阪府立茨木特別支援学校指導教諭

藤澤和子 京都府立聾学校教諭

岡田さゆり 滋賀県立総合教育センター派遣研究員

シンボルを教育や療育の現場で、有効に活用するための基本的な指導方法や教材を学び、実際の指導場面での悩みなどを解決するための学習会

I C T活用講座で、ご紹介させていただいたコミュニケーションブックの制作の実費を含めて参加費用は、1000円です。詳細およびお申込みは、J-PIC Group のサイトをご確認下さい。

<http://j-picgroup.blogspot.com/>

書籍紹介

漫画 『この星のぬくもり』 曾根 富美子 ぶんか社コミックス

『変光星—自閉の少女に見えていた世界』(森口奈緒美 著)を元にした漫画です。発行はだいぶ前で絶版となっていました。一旦、復刊されたようです。森口氏は高機能自閉症者です。高機能自閉症の特性を知り、彼らが遭遇しがちなじめなどの問題を考えるのに適した本だと思います。今、アマゾンで検索するともう中古本しかないようです。もっと出まわって欲しい本です。

ICT 活用プロジェクト夏期講座 講座 K 報告

平成 21 年 8 月 17 日(月) 14:00~17:00 於 高槻市立芥川小学校

○講義「障害支援の基礎知識 ～最近思うこと～」 講師：大西 俊介さん

○シンポジウム「みんなで考えませんか？～ICTの先に有るもの」

	シンポジスト は以下の方々です。
	中野 雄司さん (株式会社コムフレンド) http://www.com-friend.co.jp/
コーディネーター	
田代 洋章さん (アクセスインターナショナル) http://www.accessint.co.jp/	奥平 綾子さん (ハルヤンネさん：おめめどう) http://omemedo.tanba-sasayama.com/omemedoutop.html
	大島 友子さん (Microsoft 株式会社) http://www.microsoft.com/japan/enable/default.aspx
シンポジスト は以下の方々です。	
大西 俊介さん (びーすの支援センター) http://p-s-sakai.net/	金森 克浩さん (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) http://www.nise.go.jp
宮崎 美和子さん (こころ工房) http://kokorokoubou.com/	小川 修史さん (兵庫教育大学大学院学校教育研究科) http://blog.livedoor.jp/ogatti21/
石原 洋さん (アクセスインターナショナル) http://www.accessint.co.jp/	中園 正吾さん (JOHNAN 株式会社 福祉事業部) http://www.ponpon-land.com/ (ぼんぼんランド)



———以下の報告は、参加した支援研書記藤岡が主観的にまとめております。———

大西俊介さんは主にコミュニケーション支援者をサポートする取り組みをされておられます。今回は大西さんと志を同じくする各界の方々にも集まっただき、ユニークなシンポジウムが可能となりました。コミュニケーション支援は、本人が楽しめること、安心できることが大切です。良いツールとの出会いは、働ける喜びへとつながります。新しい脳スイッチについても触れられましたが、やはり本人が使いたいと思うために、その人の立ち位置や願いを理解することが原点となるようです。そうなることで、利用者は大人の顔になり、イライラが消え、自分の思いを発信できます。学校現場では、しばしば支援者の思いが先行し、子どもに年齢以下の扱いをし、本人の気持ちの変化を待たずに取り組みを進めがちです。これでは、広汎性発達障害の方を不登校に追いこみ、自閉症の方にわけのわからないこと

を強要して、活動自体を嫌いにさせてしまうことにもなりかねません。また、大西さんは自閉症の特性—視覚の強みに早くから注目され、パームトップパソコンに乗せる「あのね♪」を開発されましたが、これを、DS（任天堂）に載るようにもされました。本人が楽しんで自分用にアレンジできる工夫があるようです。その他の方々も、自作するには、けっこう手間隙がかかるけれど、あって良かったと思えるツールを紹介されていました。こころ工房、アクセスインターナショナル、コムフレンド、おめでとうやJOHNAN株式会社 福祉事業部のページもぜひごらんになって下さい。ソフトや書き込みやすいメモ、機能的で安全なパーティション、スイッチ、ちょこっとした工夫、あ、これだと思えるノウハウやアイデアも合わせて提供されています。よく面白そうなツールを見つけ、そのまま現場に持ってきて使おうとしても、うまくいかないことがあります。また、ためになるものだからと子どもに押しつけても、拒否されることがあります。アレンジやマッチング、プロデュースなどの過程があって初めてうまくいくのだと思います。使う方の不安を取り除き、使いたい気持ちを引き出し、使う喜びを感じられるようにすることに支援者側の腕が問われるわけです。また、コミュニケーションとして使われたら、しっかりと発信された思いを受け取り、なんらかの答えを実行して返す相互の関係の大切さも強調されていました。それがなければ、意欲につながりません。ましてや嫌なことを強い、指示に使うのはもっての外です。その場合、本人がツールを使わなくなり、投げ捨ててしまったり、破壊することもあるでしょう。こういった点の大切さは、多くのシンポジストが指摘し、発言されていました。

意欲さえ引き出せれば、指一本動かすことが難しい人でも、ツールを使って文章をつくり、自分の思いを綴り、本を出版する例もあります。（参照「障害者だってキスさせて」）ユーザーが実際に使い、もっとこんなのないかなと投げかければ、さらに改善し、新しく開発していきたいという意欲が発言されていました。人口知能を再現する立場（もしも・・・の研究所）からは、学校で、アスペルガーの人の抱えやすい難しさを実感し、助け出す考え方を言われていました。たとえばWBC＝笑いをベースのコミュニケーション＝楽しいことからコミュニケーションをはじめます。学校教育の中で負のイメージもちやすい彼らが、間違う怖さから開放され、間違っても楽しく生きていけるんだと心の底から思えるようになれば、どんどん積極的になれるでしょう。もしも・・・の研究所のページには、面白いものがたくさんあります。

Microsoft 株式会社では、ずっと障がいのある人が使いやすくなるようなアレンジを提供してきていますが、今回、現場ですぐ使えそうなツールやデータが同社のホームページからフリーで入手できるようになっていることがアピールされていました。今後より広く知られることで、もっと充実していくと思われます。独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の教材コンテンツも同じように大変役に立ちます。

今後、このような便利のツール等がしっかり浸透し、その後どのように変わっていくだろうかということですが、それは、眼鏡使用者の眼鏡や一般の人が使う日常的な道具と同じように、使っていることに意識なく、自然体で使え、また必要で無い時は、普通にスルーして・・・負担感を感じさせない、という感じかなあということでした。子どもたちみんなが、幸せな学校生活を送れることを願います。

2009年度 実技研修会 報告

夏休みも半ばとなった8月10日、アウィーナ大阪で、実技研修会（夏の教材製作講習会）を行いました。

突然の台風接近で天候が危ぶまれる中、86名の参加者によって、熱心な研修が行われました。

今年も、象の会の内藤壽・松永榮一・朝井翔二各先生にお出でいただき、多くのことを学ぶことができました。午前中の研修では今までの教材などの紹介と説明。次々と楽しい教材が3人の先生のユーモアあふれるお話とともに飛び出してきて、それらの教材によって子どもたちが生き生きと動く姿が目に見えようと思われました。

いろいろな教材を、一人ひとりのニーズに合わせて作られてきた実践を具体的に話していただき、その発想と工夫に感心させられるとともに、わかりやすい説明には感謝と感激いっぱいでした。

午後は、次の6つの教材の制作の講習でした。



数字の歌、QQペン、吹き矢
ぱたぱた、雨樋くす玉、かなコロリン

教材によっては、一部、続きは持ち帰って… というものもありましたが、講師の方のていねいな説明のおかげで、ほとんどの人が完成させることができました。

短時間で多くのことが学べた。さっそく2学期、授業で試してみたい。子どもたちの反応が楽しみです。…

このような感想を書かれた方がたくさんおられました。

また、参加者が充実した製作研修ができたのは、教材の準備や下ごしらえを講師の方がかなりの時間と手間をかけて行ってくださっていた、ということです。QQペンのハンダづけ、くす玉の穴あけ、…。難しいところ、手間のかかるところ、その多くを作ってくださっていました！ 有難うございました。

参加者の方からはアンケートで貴重なご意見を多く頂きました。当日の受付・進行や時間設定(昼休みなど)について、今後の参考にすべきことが多くありました。とくにインターネット・電子メールでの参加申し込みに関しては、改善・検討の余地が大きいと思います。ご意見有難うございました。

また、来年も象の会の方に研修をお願いしたい、という方が多かったです。参加してよかった、と多くの方に思っていました。本当に講師の3人の方にはお礼申し上げます。

同時に、このように教えてもらうだけでなく、これから私たち自身が、子どもたち一人ひとりをみつめ、そのニーズに合った教材を自分たちで考え創造していけるようにならないといけない、という思いも強くもちました。象の会の皆さんの実践をぜひ継承し、広めていかねばならないですね。

(文責 書記 佐藤正幸)

象の会のホームページ → <http://www15.ocn.ne.jp/~zounokai/>

参加されたからのアンケートより

(多くのご意見ありがとうございました。一部のみ紹介させていただきます)

1. 午前の部の解説について

- ・ いろいろな教材を昼に手にとれてよかった
- ・ 結局、目のつけどころというか、センスを磨かないとせつかくのネタも活かせないなあと思いました。
- ・ とても色々と教材を見せて頂き、子ども達の喜ぶ顔が目には浮かぶ感じでお話を聞かせて頂きました。特にあの絵がとてもかわいく気に入りました。
- ・ 今までの教材教具の紹介で、使用方法や発達課題に対してどのような教材が個別に必要なのかが分かったものでした。大変よかったです。
- ・ たくさんの教材の紹介があり、すぐに活かせそうな内容もあったので役に立ちました（少し見えにくかったのが残念です）。更にもっと身近な材料を使う教材を教えてください。
- ・ ありがとうございます。本校でも、担任している子供の教材に使えるものがたくさんありました。さっそく明日から作って活用したいと思います。
- ・ 一人ひとりにあった教材はとてもむずかしいなあと思いましたが、子どものわくわく感は大切にしていきたいなあと思いました。
- ・ ロープウェイ！！今年支援学校に入ってきた1年生の子の運動会どうするのか...とっていましたが、練習からは是非使ってみようと思います。いろいろなヒントを頂き、有難かったです。
- ・ 数多くの教材を紹介して頂いて大変参考になりました。教材とは...というお話から、教材を使ったゲームの実践まで興味深く楽しく勉強させて頂きました。早速、授業で活用してみたいです。
- ・ どの教材も魅力的で作ってみたいと思いました。玉入れなども、数を数えなくても投げられなくても楽しめる方法があると分かり、参考になりました。マグネットの玉落としも、なるほど！！と思いました。走るのが好きでない子にスチロールトレイ風車はすごくいい！！と思いました。
- ・ ひとりひとりの子どもの様子を見つめながら、できることを生かして課題を達成しようとする姿勢、そしてそれを楽しんでおられるところが、素晴らしいと思いました。教材も参考になるものが多かったです。ありがとうございました。
- ・ 一つ一つ丁寧に解説して下さったので、分かりやすくおもしろかったです。ロープウェイは、まだまだまっすぐに走れない幼児も安心して走れるし、道具もロープとラップの芯だけでできるので、やってみようと思います。他にも、幼稚園でも使える教材をたくさん教えて頂いたので、よかったです。

2. 午後の教材作成について(教材名もお書きください)

◎ 数字の歌

- ・ 数字の数唱の出来る子がいるので、これで遊びながら使いたい。ていねいに教えて頂きました。
- ・ なんでそうなるの？と、とても不思議であったが、作製してみると目からウロコであった。
- ・ 解説の時は、どうなっているんだろうとすごく不思議でしたが、実際つくってみて納得でした。

◎ QQペン

- ・ たいへん丁寧にご指導頂きました。たくさんのハンダ付け…大変だったと思います。ありがとうございました。
- ・ 最初から作るの難しそうだなぁと思いました。さっそく2学期から使ってみようと思います。
- ・ 一人ひとりのペースに合わせてくれたり、待ってくれたり、あせらずに参加でき、質問も気軽に受けて下さりとても良かったです。準備が大変だったんだろうと思います。ありがとうございました。
- ・ 子ども達が喜びそうです。QQペンのペン型は少し難しいですね。もし完成することがあれば教えて下さい。
- ・ はんだづけも内藤先生がやって下さったおかげで、簡単に作る事が出来ました。きっと幼稚園で使ったら子ども達に大人気だと思います。

◎ 吹き矢

- ・ 子どもが喜びそうな教材で2学期が楽しみです。又先生が言葉の発達について話して下さったのがいい勉強になりました。
- ・ 子どもにも作らせたいと思います。
- ・ 言語の概念のお話も聞けてよかった。
- ・ 作るもの自体は簡単だが、いろいろ応用できそうで2学期が楽しみです。作っている間の先生のお話がとてもよかったです。

◎ ぱたぱた

- ・ 以前から同じ市内の方が作っておられるのを見ていましたが、カードケースで、市販ではなくて作れませんでした。この機会にとまって作製することが出来ました。7種類全部GET！しました。2学期から実演できるよう練習します。
- ・ 少し難しかったですが、無事出来て良かったです。いろいろな絵を入れて楽しめたらと思います。
- ・ むずかしい（ややこしい）けど、出来た時はやったーという達成感を味わえました。
- ・ とても親切に教えて頂き無事に完成しました。2学期に子ども達に早く見せてあげたいです。

◎ 雨樋くす玉

- ・ 大がかりですが子どもの喜ぶ顔が見えそうです。

◎ かなコロリン

- ・ 手作りでもいいかいができて、どの子にも喜ばれる教具です。バリエーションの多い工夫ができるところがいいなと思いました（自分で）。
- ・ 箱作りは大変だったけど、箱をつくってしまえば、かなだけでなく、いろんな応用ができるので、どんどん使っていきたいです。
- ・ 実物を見ていても作り方を知らず、今日参加しました。カーブは少し難しかったですが、楽しんで作らせてもらいました。
- ・ 作り方は一見複雑かと思いましたが、やってみるとそうでもなく、楽しく作ることができました。年長児がちょうど字に興味を持ちだしているので、これで言葉遊びなどを2学期にさっそくやってみようと思います。中身もいろいろ違えても使ってみたいと思います。

◎ QQペン・雨樋くす玉

- ・ ひとりでは作るのできないものを作らせていただいてありがたかったです。担当している子どもにQQペンを使える子はいませんが、「くす玉」の方はいつでもどこでも役に立ちそうで、

いい財産が出来ました。

◎ 数字の歌・雨樋くす玉

- ・ 早速使わせて頂きます。出来上がった後の生徒達の嬉しそうな顔が目にかびました。
- ・ それぞれ目からウロコ。特にくす玉は形を見た時に、くす玉は丸いイメージだったので楽しくなってきました。事前準備を丁寧にして頂いているので、申し訳ないし有難いと思います。ゆっくり丁寧に説明して頂いたので、よく分かりました。数字の歌は材料が少し手に入りにくそうなのが残念です。絵がとても素敵でした。教材作製が2つだったので、他に作りたいものもあり、凄く迷いました。

◎ 数字の歌・ぱたぱた

- ・ 朝井先生のととても分かりやすい説明のおかげで出来上がって嬉しく思います。ありがとうございました。

◎ 吹き矢・かなコロリン

- ・ どちらも分かりやすく教えて頂けて良かったです。一人で本を見て作るにはやっぱり難しそうですので...

◎ 数字のうた・かなコロリン

- ・ 「へ〜っ!!」の連続でした。こんなアイデアでこんなおもしろいものができるのかあ、と感動しました。とてもたのしかったです。さっそく学校で使ってみようと思います。

3. この研修会の運営全体について（参加申し込み～事前準備～当日運営 その他）

- ・ 開始時刻を10時にして昼食時間帯を1時間から1時間30分に伸ばしていただけたら、ゆとりを持って食事に行けますが.....。
- ・ 事前...事前にどの実技講習会になったかが分かれば（メールなどで知らせていただければ）準備物なども用意しやすかったです。当日...初めから終わりまで、とても充実した内容で感激でした。
- ・ メールでの申込だったので少し『本当に申し込んでいるのかな?』と不安に感じました。
- ・ 自宅から参加申込ができてスムーズで良かったです。運営をさせていただいている先生方、お疲れ様です。
- ・ 初めて参加させていただきましたが良かったです。実際に教具も見せて頂いたので参考になりました。
- ・ ネットでの申込、事前にOKかどうかわからなく不安でした。
- ・ 申込、第3希望までであったので書き入れましたが、どの希望の教材になるかよく分からなかったこと。教材ごとに準備物が必要ですが、準備物の確認が出来なかったことが不安でした。HPに全部掲載してほしいです。
- ・ できれば作りたい物を希望して作れると良かったです。今回は同じ学校で参加した3人が同じ教材を作ることになったので、違う教材を作ることができればよかったかなと思いました。
- ・ 今日参加できて良かったです。メール申込は少し難しかったですよ。
- ・ 参加申込がメールで返信なし（自動で）だったので、本当に申込ができていないか少し不安でした。準備物の欄が、あわてて読むと、袋だけだったり個別の材料だけになりそうでした。ゴミは持ち帰りではなく、一カ所に捨てる方が助かります。

- ・ 駄目な場合は事前に連絡するというではありませんでしたが、もう少し早く可能とか、ちがう教材に回るとか連絡があれば安心できたかなあと思いました。
- ・ 時間が丁度よかったです。（午前1時間半、午後1時間半ずつ）。場所もホテル自体がきれいで快適でした。いろいろ準備等大変だったと思いますが、ありがとうございました。

4. 大支援研として、これから、どのような研修会や講演会を行えばよいでしょうか。

- ・ “象の会”ってどんな会かなと思いました。もう少し紹介してもらったらなあと思います。また、こんな教材の会を開いてもらえたらと思います。
- ・ いつも夏季の教材作り、楽しみにしています。来年も宜しくお願いします。
- ・ ニュースの配信をもっと早くして下さい。
- ・ これからも今日のような、すぐに役立つ教材作りがしてみたいです。本当に役に立ちましたし、とても楽しかったです。また参加させていただきたいです。ありがとうございました。
- ・ 日々の教育活動の中で具体的な支援の方法を教えてください。今日はありがとうございました。
- ・ また新しい教具ができれば是非教えていただきたいです。本日はありがとうございました。
- ・ ICFを生かした個別の指導計画の作成について研修したいです。
- ・ 色々な校種や学年で(少しの工夫でやさしくも難しくもできるような)使えるものを教えて下されば有難いです。
- ・ 手作り教具は、やはりありがたいです。特別支援の児童（学習障害）文字獲得の方法。
- ・ 1～20までの数の教材をまた教えてください。子ども達の必要から生まれた教材ですね。すぐにできそうな物から作って見たいと思います。
- ・ 具体的な教材作りや、それを生かした具体的な授業の話はすぐに役立つのではと思います。



施設見学会を終えて

8月25日、泉北ニュータウンの緑に囲まれた大阪障害者職業能力開発校に、30余名が伺いました。この施設は、職業能力開発促進法に基づいて国が設置し大阪府が委託運営する機関です。

身体障がい者（OAビジネス20名、CAD製図20名、製版アート20名、Webデザイン20名、オフィス実践10名）、知的障がい者（ワークサービス30名）精神障がい者（職域開拓5名 この科のみ6ヶ月）が、1年間にわたって就労に向けて学科と実技を中心に学んでいます。特に、Webデザイン科は人気が高く、全国から応募があるそうです。就職率は、IT関連の仕事を中心におおむね70%をこえているとのことでした。しかしながら、障がい者にとって仕事の現場へ行くことが困難であったり、体力や作業持続力がより必要であったりと、就労へのハードルはやはり高いというお話でした。

福祉施設ではなく就業訓練の場である職業能力開発校は、就労という出口を目標に、実践的なカリキュラムが組まれていました。中卒から60歳ぐらいの人まで1日8時間の授業を受けます。指導員のみなさんの熱心な指導が続けられていました。

見学のあと、いくつかの質問に答えていただきました。そのひとつ、「社会生活習慣が身につけていることが職場での鍵になる」ということでした。技能は就労してからも身につけたり指導を受けたりすることはできるが、社会人としてのマナーや生活習慣については職場では対応できないとのこと、学校の指導が就労にまでつながっていることを改めて気づかされました。今後の指導に生かしていきたいと思いました。

新型インフルエンザの影響で、行事の入れ替わりがあって参加できなかった方が多かったのが残念でした。

参加者の感想

- ・能力開発校に初めて来させていただいて、子どもたちの就労に向けて参考になるところがとても多かったです。やはり、技術も大切というのはよく分かりましたが、それ以上に子どもの社会生活習慣をつけていくことの大切さをお聞きし、これからの支援の方向性やポイントを改めてつかめたように思いました。
- ・能力開発校の様子を実際に見学することができ、進路についての見識が広がりました。脳性まひの生徒の保護者が希望することも多く、なかなか生徒の実態に合わないと聞くことが多かったのですが、現実を見るとなかなか厳しいと感じました。教師自身を知ることで、やっと適切な進路指導や話ができますね。

(文責 大村)



平成21年(2009年)9月10日

各 学 校 長 様
支援教育関係者 様

大阪府支援教育研究会
会 長 草 竹 幸 一

冬 季 研 修 会 の ご 案 内 (一次案内)

大阪府支援教育研究会主催で、以下の要項で冬季研修会を実施いたします。
現在、講座の内容・講師等についての企画をすすめております。
詳しい内容および申し込み方法については、後日、二次案内でお知らせいたします。
ふるってご参加ください。

記

(1) 日 時 平成22年(2010年) 1月30日(土)
午前10時～午後4時(9時30分 受付開始)

(2) 場 所 たかつガーデン
大阪市天王寺区東高津町7-11 TEL (06)6768-3911

(3) 内 容 午前・午後 それぞれ いくつかのテーマ別講座を実施いたします。
現在、以下のようなものを予定いたしております。

アセスメントについて	地域での障がい支援について
知的障がい教育における自立活動について	
ICT活用について	ICFについて
性教育	自閉症教育プロジェクトによる講座

(4) 詳細および申し込み方法
後日、二次案内でお知らせいたします。(11月中旬を予定しています)
大支援研のHPおよびニュースをご参照ください。

<http://daishienken.visithp.com/>

(5) 問い合わせ先 大阪府支援教育研究会 書記(研修部担当) 佐藤正幸
摂津市立第四中学校 TEL 06-6349-6181
FAX 06-6349-6184

第25回 大阪ムーブメント教育 研究会のご案内

大阪ムーブメント教育研究会（JAMET 大阪支部）
代 表 金 川 朋 子

ムーブメント教育は、1977年に小林芳文博士（和光大学教授）によって、初めてわが国に紹介されました。『人間尊重』の教育を基本理念として、子どもの自主性・自発性を重視し、究極的には子どもの『健康と幸福感の達成』をめざしています。この素晴らしいムーブメント教育について、ともに勉強し、日々の教育実践に反映させ、楽しいムーブメント教育を広げていきたいと考え、2005年10月から大阪でも研究会をスタートしました。研究会の活動を通して、ムーブメント教育が大阪を中心として西日本でも大きく広がり仲間がつながり、今年度は、平成21年8月22日（土）～23日（日）に夏期セミナー第4回大阪大会を開催され、ますますムーブメントの仲間が広がってきています。

さて、今回はJAMETの各支部で行われた夏期セミナーの伝達講習を中心に、それぞれの現場で取り組んでいる実践を交流し共に学び高めあう機会になればと考えています。

ムーブメント教育に興味をもたれている方、もっと勉強してみたいと思われる方、ぜひ参加してください。また、まだムーブメント教育を知らない方々も仲間でおられたらぜひお誘いください。

☆ 日 時 :平成21年10月24日(土) 14:00 ～ 16:00

☆ 会 場 :大阪教育大学 附属特別支援学校
(大阪市営地下鉄谷町線 喜連瓜破駅下車 徒歩5分)

☆ 参加費 :500円(当日 徴収いたします)



《第23回研究会の様子》

☆ 内 容 : 夏期セミナーの伝達講習

☆ 申し込み先及び方法

:JAMET 大阪支部 FAX 072-367-0713

:E-MAIL kogorou123@nifty.com

:下記の申込書にご記入の上FAX、もしくはメールでお申し込みください。

☆大阪ムーブメント教育研究会ホームページ <http://homepage2.nifty.com/osaka-movement/>

☆ その他 ・動きやすい服装でご参加ください。

・問い合わせ等 JAMET 大阪支部 高井照隆 090-9995-5223

☆ ムーブメント教育 研修会(10月24日) 参加申し込み

ご氏名(ふりがな)	所 属 名	連 絡 先
		TEL・FAX
		E-MAIL

* 複数枚必要な場合は、おそれいりますが、コピーをしてお申し込みください。

平成21年9月14日

関係各位 様

発達障害児・者の性教育研究会
会 長 中 村 昭 代

「発達障害児・者の性教育研究会 第2回例会」のご案内

平素は本会の活動に対し、何かとご支援ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。
平成21年度の第2回例会以下のように行いますのでご案内いたします。

つきましては、ご多用中のこととは存じますが、是非ご参加下さいますよう、
ご案内申し上げます。

記

1. 日 時 平成21年10月24日（土）
午後1時30分～4時
2. 場 所 大阪市長居障害者スポーツセンター 1階 和室
大阪市長居区長居公園1-32
06-6697-8681
最寄り駅 地下鉄御堂筋線「長居駅」①番出口徒歩4分
3. 内 容 「本校の性の現状と課題」
4. 講 師 大阪府立たまがわ高等支援学校 教 諭 吉村 晴海 さん
大阪府立たまがわ高等支援学校 養護教諭 西村 宏美 さん
大阪府立たまがわ高等支援学校 養護教諭 田中 滋子 さん
5. 講師紹介及び内容の概要
今回は、たまがわ高等支援学校保健部の、吉村 晴海先生 西村 宏美先生
田中 滋子先生から、同校の生徒の性の現状やそこから見えてくる課題、性教育への
取り組み方やその内容などについて、お話して頂きます。
6. 資料代
当日会員 500円
7. 問い合わせ先
大橋 090-4304-2836

平成21年10月1日

関係機関長 様

大阪特別支援教育推進連盟
理事長 南 良知

平成21年度実践記録論文の募集について

日ごろは、大阪の特別支援教育の推進・充実に何かとお力添えをいただき厚くお礼を申し上げます。

さて、本年も標記のとおり障害児（者）の福祉・教育に携わる方々の実践記録論文を下記の要領で募集いたします。

つきましては、関係者へのご周知、ご奨励をよろしくお願い申し上げます。

記

平成21年度実践記録論文募集要領

- 1 内 容 福祉施設・学校等で障害児（者）と共に歩んでいる方々の日ごろの実践のまとめ
- 2 方 法 A4版で本文を5000字程度（ワープロ可）写真、グラフ、図等の挿入も可
具体的な実践論文の書き方については、別記を参照してください
審査の都合上、6部コピーして送付してください
- 3 締 切 平成22年1月15日（金）
- 4 送り先 大阪特別支援教育推進連盟事務局
〒581-0846 八尾市上之島町南7-6
大阪府立八尾支援学校内 TEL072-923-4485
- 5 表 彰 優秀作品には、賞状及び記念品を贈呈します。
- 6 表彰式 平成22年2月24日（水） 15時～16時30分
たかつガーデン（大阪府教育会館）
大阪市天王寺区東高津町7-11 TEL06-6768-3911

実践論文の書き方（例） —— 実践論文の構成と記載概要 ——

- A4版で本文を5000字程度（ワープロ可）
- 写真、グラフ、図等の挿入も可
- 表紙に、題目（テーマ）、所属、氏名（グループ名）を記載

<実践論文の題目（テーマ）>

- ・ 論文の内容が推測できるキーワードも含め、題目を40文字程度で標記する。

<要約>

- ・ 論文の概要が分かるよう500文字程度に簡潔にまとめる。

<目次>

- ・ 大項目、小項目を記し、ページを記す。

<序論>

- ・ この論文を書くに至った経緯、この内容を取り上げるに至った背景・理由を記す。
- ・ 取り上げた対象の実態、取り上げた児童・生徒（障害者）の実態、及び児童・生徒（障害者）を取り巻く状況を記す。

<実践＝取り組み>

- ・ 具体的な実践記録を、大項目、小項目を付して分かりやすく記す。

<結果と考察>

- ・ 実践を通して明らかになったこと、課題、今後どのような点に活かせるか、など実践全般を通しての総括的なまとめを記す。